

街路樹



英語・外国語科の授業改善の視点と実践例紹介

スクールカウンセラーの活用について

小・中学校の新学習指導要領の外国語科の目標に、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる」とあります。生徒が「外国語による見方・考え方を働かせる」授業の進め方は実践1と実践2のどちらでしょうか。

＜中学校の授業実践から＞

実践1:「あなたの好きな人物について隣の人と話してみよう。その前に、会話で使うことができる便利な表現を教えます。」と指示する。生徒たちがどのように尋ねたり答えたりすればよいのか、その表現を先に示し、活動を始める。

実践2:「あなたの好きな人物について隣の人と話してみよう。」と指示し、活動を始める。AさんとBさんが英語でやり取りをする。2人はまず、「自分が好きな人は誰だろう。」と考え、Aさんは自分の好きな「藤井聡太」について伝え方を工夫する。

実践1では、人物や理由などの「内容」は考えたとしても「英語でどのように表現するか」については、ほとんど考える必要ありません。



実践2では、藤井聡太を好きな理由は何かといった自分の考えや気持ちなどを、英語でどのように表現し伝えようかという思考が働いています。Aさんは伝えたい「内容」と「言語材料」の両方を考えています。新学習指導要領で求めているのは、このような思考や判断が生徒自身の頭の中で起こるような授業です。

英語の授業は、コミュニケーションの目的・場面・状況等にに応じて、生徒自らが「見方・考え方」を働かせ、表現するための英語を考えてこそ成立します。どのような場面や状況において、何を目的として言葉を使うのか、相手との関わりを考えて英語を使っていくことを意識して、2学期の英語の授業を、さらに充実したものにしていきましょう。



昨今の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、心理的なストレスを抱えている児童生徒も多いのではないのでしょうか。このような状況においては、より一層の心のケアが必要となります。日々、児童生徒の表情や行動等から実態を把握し、細やかにケアしていくことが大切です。また、心の専門家であるスクールカウンセラー（以下SC）と連携を図ることも大切だと思います。SCが配置されていない小学校においては、近隣のSC配置校と連絡を取り合い有効にご活用ください。

また、福島県のSC派遣事業の一環として「福島大学・弘前大学専門家チーム派遣」があります。派遣内容は、次の(1)~(3)となっています。

(1)心のプログラム（こころの授業）

「ストレスマネジメント」や「感情コントロール」などの授業を行う。

(2)巡回相談

気になる児童生徒の面談や観察等を行い、対応についてコンサルテーションを行う。

(3)保護者・教員向け講演会

児童生徒の心のケアに関して、保護者・教員を対象とした研修・講演会を実施する。

この専門家チームについては、派遣希望を随時受け付けております。派遣希望の際は、5月14日付通知を確認の上、教育支援室までご連絡ください。

新型コロナウイルス感染症拡大のみならず、各地域での自然災害や事故等が頻発しており、今後、緊急時のSC派遣要請も考えられます。SC派遣については、教育支援室と連携を図り、有効に活用いただければと思います。



校内研修の進め方（体験型・参加型校内研修のすすめ）～校内研修にも主体的な学びを～

今年は、例年よりも短い夏休みでしたが、たくさんの先生方に当センターで開設した講座を受講していただくことができました。研修講座後の感想には、「ぜひ学校で伝達していきたい」というコメントも多く見られ、学びが共有されることは大変うれしい限りです。では、校内研修をできるだけ分かりやすく、そして効果的に行うためにはどうすればよいのでしょうか。

企画者としては、頭を悩ませるところでもあります。そんな時、「体験型・参加型研修」を企画することも一つのアイデアです。「体験型・参加型研修」には以下のような特徴があります。

- 参加者自身が動き、考え、話し合うことで進行するため、能動的になる。
- 協働作業や共通理解を通して職員の協働性、同僚性が向上する。
- 個々の知識・体験・技能が生かされやすく、自己有用感が高まる。

研修内容や時間、対象などを考え、ちょっとした意見交換や思考ツールの活用を設定するだけでも効果的な研修となります。主体性の高い学びほど知識の定着率が高いことが知られております。教師も主体的な学び手となるよう校内研修も授業と同様に一工夫していきたいものです。

当センターのKドライブやNITSのオンライン講座にも様々なプランやワークシートがあります。ぜひご活用ください。

(1) 思考ツールの種類

- ① アイデアを発散(拡散)させる
「ブレインライティング」「マンダラ」など
- ② アイデアを収束させる
「フィッシュボーン」「マトリックス」「KJ法」など
- ③ 実践につなげる
「5W1H」「SWOT分析」など
- ④ 体験する
「ロールプレイング」など



(2) 研修の大まかな流れの例

- ① 研修のねらいや目指すゴール、流れ等を確認
- ② 1つまたは複数の手法・ツールでグループリーダーを中心に進める
- ③ 活動が終了するごとに、話し合いの成果や状況を発表し合い、共有化を図る
- ④ 活動を振り返り、管理職から助言いただく